

令和7年度

児安学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

PBSを活用した授業の実践 ○児童の実態に応じたカリキュラムマネジメントによる基礎学力の定着 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（話し合い活動の充実） ○できるようになったことの自覚・共有につながる評価の工夫
--

校長

南郷 孝嘉

学力向上推進員

株田 沙耶香

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、校内研修(ステップアップテストや学力テストの結果について)等を踏まえ、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前向きに粘り強く最後まで課題をやり遂げる。 ○新しい技能や学習の習得に積極的に取り組む。 ○課題に真面目に取り組むことができる。 ○ペア学習やグループ学習で個々のよさを発揮する。 ●集団行動の中で、まだ規律が十分に身につけていない様子が見られる学年がある。 ●語彙が豊かであるとは言えない。 ●学力の基礎(姿勢の保持、声の大きさ、家庭学習等)が定着していない。 ●基本的な問題には意欲的に取り組むが、応用問題になるとじっくり考えようとしていない。 ●自分で解決しようとする力が乏しい。	・学習の基礎・基本の定着を図る。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。 ・辞典や資料、ICT機器等から適切に情報を収集することができる。 ・友達の意見を聞き、自分の考えを深めたり修正したりする力を身に付ける。 ・読書活動の習慣を身につける。 ・読書や辞書、ICT機器の活用等によって、語彙を増やし、それを表現に用いることで語彙を身につける。	・児童に応じた課題を提示する。 ・視覚支援になるものを効果的に活用する。 ・授業の中で、自力解決の時間を十分に確保し、個別指導を徹底する。 ・単元の中で、応用問題を解く場面を設定する。 ・児童一人一人のつまずきを捉え、学習状況の改善を図る。 ・ICT機器を効果的に活用し、児童の個別最適な学びにつなげる。 ・月末に「チャレンジテスト」を行い、学力の定着を図る。	・ステップアップテストの結果から、文章の内容を読み取る力に課題があることがわかった。長文や文章に慣れるために、読書を促す活動を取り入れ、「読んで理解する」体験を意図的に増やす。	・視覚支援を意識した授業改善を行い、電子黒板やデジタル教科書を効果的に活用することで、学習内容の定着を図ることができた。 ・スモールステップでの課題の提示や工夫した問題提示を行った。課題の達成状況に応じて、AIDリルの難易度を選択することができるよう設定することで、個に応じた学習を進めることができた。 ・発達段階に合わせてICT機器を適切に用いることができた。 ・毎月の「チャレンジテスト」では、全学年100%実施できたことにより、基礎的な読み書きや計算の力をつけることができた。	・各教科の柱を作成し、系統性を意識した指導を行うことで、学力の定着を図っていく。(授業の流れ・ノート指導・家庭学習の取り組み方等全学年できるだけ統一する。) ・ICT機器の活用を教員間で共有し、児童の理解を深める授業づくりを進めていく。(AIDリルやまなびポケット等) ・児童の経験や体験活動の時間を確保し、学びを実感できる授業づくりを進めていく。 ・毎時間の振り返りの時間を保証し、児童の理解状況を把握した上で次時授業を組み立てていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発言できる児童が多い。 ○音読を上手にすることができる。 ○話し合い活動に積極的に参加し、自分たちで意見を出し合い交流することができる。 ○ペア学習やグループ学習で、自分の意見をしっかりと伝えることができる。 ●友達の意見や話を聞くことが苦手である。 ●友達の意見を否定することは少ないが、全てをよいと認めてしまう傾向がある。 ●感想を具体的に伝えることが難しい。 ●大切なことや話の要点を理解する力が不十分である。 ●課題についてじっくり考えたり、思考を豊かに表現したりする力が不十分である。	・多面的な見方や考え方ができ、自分の考えを一人ひとりがもち、それを伝えたり、友達の意見を認めたりすることができる。 ・語彙を習得し、いろいろな表現方法を知ることができる。 ・学習活動に積極的に取り組み、自分の意見や考えを自信をもって発表することができる。	・学習活動のスモールステップ化や細分化を図り、個々の児童に対応できるようにする。 ・体験的な活動を増やす。 ・話し合い活動や少人数活動での意見交流の場面を意図的に設定する。 ・朝の会の一分間スピーチや、朝会での発表場面の設定をする。 ・自分の考えや立場を筋道を立てて話したり、書いたりすることができるよう、発達段階に応じた指導を行う。	・知識・技能を普段の生活でうまく活用できていないことが課題として浮かび上がった。算数的活動を行う際、日常生活の場面に即して理解を深める場面に授業の中に設定するようにする。	・外部人材やゲストティーチャーを積極的に活用し、体験活動を意図的に増やすことで、児童の思考力・判断力・表現力の向上につなげることができた。 ・個別→ペア→グループ→個別等の学習の流れが定着し、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになった。 ・自分の考えを言葉や文章、図等で表現する活動を計画的に取り入れることができ、多角的に問題を見て解決をする力を育むことができた。	・学習活動を細分化し、個々の児童の理解度や発達に応じた指導を計画的に行い、児童の思考力・判断力・表現力の向上につなげる。 ・教員間で互いの授業参観を行い、学び合う時間を計画的に設定することで、授業改善につなげていく。 ・言語環境や発表の場の設定を大切にして、児童が安心して表現できる授業づくりを進めていく。 ・ペアやグループで意見を伝え合う場面を意図的に増やし、児童が主体的に考え、協働的に学ぶ機会を充実させていく。 ・発達段階に応じて、児童が意欲的に学べるような掲示の内容を考え、工夫していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書活動の充実を図っており、読書が好きな児童が多い。(本に興味を持って読むことができる。) ○できるようになったことを続ける力がある。 ●基本的な生活習慣が不十分な児童がいる。(早寝やメディア時間、朝ご飯等) ●主体的に取り組む場面での二極化(積極的と消極的)が進み、固定化されてしまっている。 ●家庭と連携した「おうち読書」の定着が課題である。 ●宿題の提出率は高いが、自主学習の時間は、個人差が大きい。	・基本的な生活習慣を身につけることができる。 ・成功体験を積み、自分の意見や考えに自信をもって発表することができる。 ・目標をもって読書や学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。 ・学習過程において、学びを振り返り、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。 ・自分の「できる」「できた(成功体験)」を増やし、達成感を味わい、進んで学習に取り組むことができる。	・指示を簡素化し、取り組みやすくする。 ・活動の流れやルーティーンを明確化する。 ・養護教諭や栄養教諭との連携を行い、生活指導を並行して行う。 ・調べ学習や豊かな読書を推進するために、ICT機器や図書等、言語環境や学習環境を整備する。 ・ポジティブな行動支援に年間を通して計画的に取り組む。 ・児童のできたことを可視化して称賛する。 ・「児安ブックリスト」「おうち読書」「スマイル読書」等を活用し、読書をする時間を意図的に設け、読書推進活動を実施する。 ・市立図書館や県立図書館との連携を図り、効果的に利用する。	・授業の流れを黒板や電子黒板等に視覚的に掲示することで、児童が学習の進行を把握しやすくなった。 ・養護教諭や栄養教諭と連携することで、食育やブラッシング指導などの専門性を活かした指導を行うことができた。 ・国語辞典の設置、スマイル読書の実施など、児童が主体的に学習に取り組みやすい環境を整備することができた。 ・「おしえてねカード」(SWPBS)を活用することで、毎月の自分を振り返ることができた。 ・市立図書館や県立図書館を有効に活用することができた。	・ICT機器を活用して、情報モラルやタイピング、メディアの活用方法を学ぶ機会を確保し、児童が主体的に学習を進めることのできる環境を整えていく。 ・引き続き養護教諭や栄養教諭との連携を行い、健康、食育、心の健康など、より児童の生活課題に還元することのできる指導を行っていく。 ・「児安ブックリスト」「おうち読書」の活用方法を見直し、より児童が学校や自宅で読書に取り組むやすい環境を整えることで、読書習慣の定着を図る。 ・教員間の情報共有を綿密に行う事で、指導力の向上を図る。	